

## 〔議案第 3 号〕 2006 年度活動計画

### 1. 基本方針

有害化学物質削減ネットワーク（Tウォッチ）として市民に役立つP R T R情報提供ウェブサイト運営してまる3年が経過しました。2003年4月から小規模届出事業者への猶予がなくなり、P R T R制度の本格運用が始まりました。昨年3月の国による第3回(2003年度)集計公表や今年2月の第4回(2004年度)集計公表データで届出対象外排出量は大幅減少したにもかかわらず、届出排出量は横ばいからわずかに減少と公表されましたが、環境中に排出された化学物質量をきちんと説明しているとは言いがたいです。P R T Rの集計公表データの信頼性や未届出事業者の多さなどP R T R制度の問題点が明らかになってきました。

一方、P R T Rの集計公表データは環境省や経済産業省のP R T R集計コーナーだけでなく、N I T E(独立行政法人製品評価技術基盤機構)や産業総合技術研究所化学物質リスク評価センター、社団法人環境情報科学センターなど国の関連機関や各都道府県の環境情報、P R T Rコーナーなどさまざまなウェブサイトで加工されたデータを閲覧できるようになりました。また、市民向けの情報公開サイトとしてTウォッチとエコケミストリー研究会のウェブサイトなどがありますが、残念なことに市民の関心が薄く、市民に知られていないのが現状です。我々の力不足を認めざるを得ませんが、

たくさんあるP R T R関連ウェブサイトへのアクセス数が伸び悩んでいるのが現状です。環境省の集計公表コーナーは昨年4月からアクセスカウンターをはずしたので不明ですが、Tウォッチのアクセス数もそれほど増加せず、年間3万件です。これは届出データベースの更新が行われなかったことも原因の一つにあります。4万件を超える届出事業者すら、自らのデータがどのように公表され、市民が利用しているのかすら確認していないのが実情だといえます。いかに市民にP R T R制度で集められた環境情報を伝えるのかが問われていると言えます。P R T R制度を一般市民に普及する活動に力を入れたいと考えています。

昨年9月にGHS制度の学習会を行いました。国連勧告に基づき、日本でも2008年までGHS制度を制度化しなければいけません。市民にとって役立つ制度として運用するような政策提言を必要とします。昨年は2004年の国際市民セミナーを契機に「化学物質汚染のない地球をめざす東京宣言」の署名活動を展開しました。EUで新化学物質政策であるREACHの導入が決定され、日本政府の中にも国際動向をにらみながら、新しい化学物質政策を考えていこうとする動きが出てきました。本年5月には経済産業省が産業構造審議会化学・バイオ部会に化学物質対策基本問題小委員会を設置し、秋までに議論をまとめるという方針を提案しています。また、環境省も化学物質排出把握管理促進法の見直しに関する懇談会を設置し、P R T R制度の見直しを開始します。どちらにもTウォッチの理事長である中地が委員として参加要請されており、市民セクターとしてきちんと化学物質政策を提案していきたいと思えます。社会の中でTウォッチが果たすべき役割が重要となってきており、そのことを自覚して、今年はいよいよ飛躍の年になるよう活動して行きたいと思えます。以下、重点課題と一般課題に分けて、活動方針をまとめました。

### 2. 重点課題

①日本の新たな化学物質政策に市民の意見を反映させる活動に取り組みます。経済産業省産業構造審議会の動きに連動し、化学汚染のない地球をめざすために、市民が求める化学物質管理政策を

提案する活動を行います。6月から連続して学習、討論会を行い、9月には市民提案をまとめて公表します。

- ② P R T R制度の立法化の経緯に基づき、化学物質排出把握管理促進法の見直し時期にさしかかり、環境省などによるP R T R制度の見直し作業が行われます。今までの活動の中から、制度の不十分点を是正し、市民に役立つ精度にする活動に積極的に取り組みます。
- ③ 単年度大幅赤字という収支決算報告にもありましたが、N P O法人としての財政基盤の確立が急務です。安定的な収入を得るために、会員の拡大を図ります。また、賛助会員制度を立ち上げ、安定した財政基盤の確立と活動を支える事務局体制の整備に取り組みます。

### 3. 活動計画

#### (1) Tウォッチのウェブサイトの充実

- ① 国による第4回のP R T R集計公表を、市民にわかりやすい形に加工し、ウェブサイト等で提供します。データ検索の改定作業に早い時期から取り組み、6月にはリニューアルします。Tウォッチのホームページはエコケミストリー研究会と協力し、継続して維持していきます。
- ② 市民が日常使用する商品にP R T R対象物質などが含まれているか調べられる商品データベースを作成し、インターネットから検索できるウェブサイトを設置します。8月には立ち上げ、商品数など内容の充実を図ります。
- ③ 事業場からの排出データの国際比較ができるようデータ検索の英語化が完了しましたが、Tウォッチのホームページ全体の英語化に向けた作業を引き続き行っていきます。国によるP R T R情報開示にあわせて、内容の改定を行っていきます。
- ④ 会員間の情報交換やP R T Rデータについての議論ができるような掲示板を開設しましたが、ほとんど運用できていません。P R T Rデータの二次加工を双方向で実施できるよう会員に周知していきます。
- ⑤ 前述した作業を進め、ウェブサイトの更新がはかれるようウェブサイト研究会を開催するとともに、データベース構築など協力してくれるボランティアなど人的資源を確保し、ウェブサイトの運用体制を強化します。

#### (2) 学習会、地域セミナーなど普及啓発活動

- ① 経済産業省の化学物質対策基本問題小委員会や環境省の化学物質排出把握管理促進法に関する懇談会の審議と並行して、化学物質管理のありかたや諸外国の化学物質政策の現状などについて、学習会や討論会を積極的に開催していきます。
- ② 化学物質の環境リスクをどう考えていくのか、P R T R制度の市民的活用に関する普及啓発のために、連続学習会と地域セミナーを10月以降に開催します。
- ③ P R T R情報を活用して、地域で化学物質削減に取り組む市民やNGOを支援します。市民からの相談に応じられるような地域のNGOとの連絡体制を緊密化し、対応できるようにしていきます。P R T Rデータの読み方等について市民が企画した学習会に講師を派遣します。
- ④ 地域で市民がどのようにP R T Rデータを活用できるのか、モデル地域を定め、その地域の汚染データの検討や対策などについて学習会やワークショップ等を実施し、地域住民と協同したケーススタディと普及啓発活動を行います。

### (3) 調査、研究活動及び政策提言活動

- ①化学物質排出把握管理促進法の施行から7年後というPRTR制度の見直し作業が環境省の懇談会によって5月から開始されます。PRTR制度が本格運用されて、3年を経過し、本年2月には4回目のPRTRデータの集計公表がありました。経年比較ができるようなデータが蓄積してきました。この集計公表データを検討、解析し、市民が有効活用できるように、PRTRデータの使い方を提案します。
- ②ウェブ研究会を継続し、商品データベース検索サイトを充実させていきます。PRTRの集計データの精度向上や推計方法の精度向上のために調査、研究活動を行います。

### (4) リスクコミュニケーションの実践

PRTRデータを活用したリスクコミュニケーションを実践します。

企業の工場見学とリスクコミュニケーションの実施方法に関するケーススタディを増やし、よりよい実施方法を提案します。

市民からの要請があれば、そのためのインタープリターやファシリテーターを派遣します。

また、活動の積み重ねの中で、日本の現状に即したリスクコミュニケーションのあり方を研究し、提案していきます。

### (5) 海外NGOとのネットワーク強化

- ①地球規模での有害化学物質削減のため、海外のNGOとのネットワーク化を強化していきます。秋にはヨーロッパ等からNGO代表を招き、EUの新化学物質政策REACH規制やGHSに関する国際市民セミナーを開催します。また、韓国、タイなどPRTRの制度が存在し、制度化を検討中のアジア諸国の環境団体等との連携を図り、PRTRに関するアジアネットワークを追求します。
- ②化学物質の表示システムの統一をめざすGHS国連勧告など、国際的な化学物質規制に関する情報収集に取り組み、その成果を学習会等で発表していきます。

### (6) 広報、宣伝、マスコミ対策の強化

- ①安定した財政基盤の確立のため、会員拡大を図ります。また、賛助会員制度の導入を行います。そのため、加入案内用のパンフレットの作成、会報の発行など広報、宣伝活動を強化します。
- ②PRTR制度の普及啓発活動や、Tウオッチの活動をより多くの市民に知ってもらうため、マスコミへの働きかけを強化します。

### (7) 組織強化、財政基盤の確立

昨年度の事業報告にもあるように、NPO法人としての組織整備、財政基盤の確立が急務です。安定的な収入を得るために、会員の拡大を図ります。また、賛助会員制度を立ち上げ、安定した財政基盤の確立と活動を支える事務局体制の整備に取り組みます。ウェブサイトの更新やデータ入力作業などボランティアを募集し、Tウオッチの活動に参加する人材を広く募ります。